

データベースセキュリティの向上

PISO

システム性能を劣化させずに、マルチDBを監査

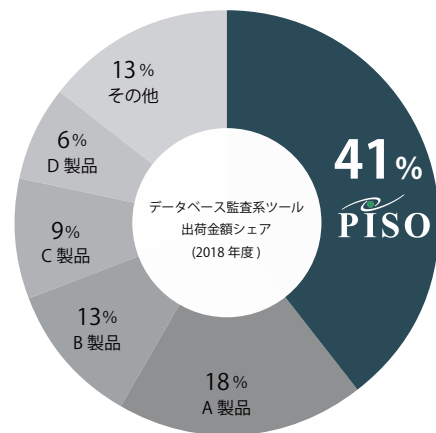
『PISO』とは？

PISOはSOX法、HIPAA、DISA、PCI DSSなどに対応した、データベース監査ツールです。コンプライアンスのニーズに合わせたリアルタイムなモニタリング、監査機能を提供し、異なるデータベース、異なるバージョンであっても、ログフォーマット、取得項目などを意識せずに運用、マルチデータベース間での統合監査を実現します。



データベース監査市場 12年連続No.1の実績

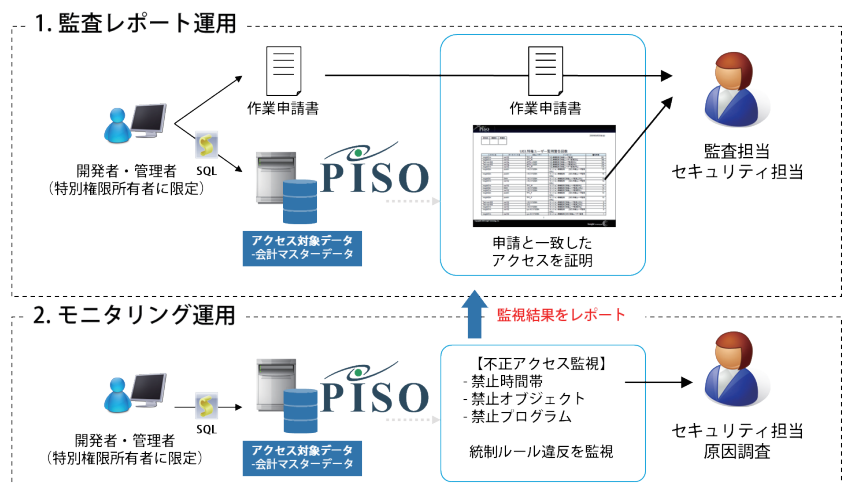
PISOは2005年の発売から業界を問わず多くのお客様に導入頂いています。データベース監査基準に沿ったログを記録し、あらゆる監査報告書に対応できるレポートを作成することで、お客様それぞれの要件に合わせたデータベースセキュリティ対策を実現します。



(出典：ガバナンス&監査編 2019年度版 サイバーセキュリティソリューション市場の現状と将来展望 ミック経済研究所)

データベース監査運用

PISOから収集した監査ログは、ワークフローで承認された結果と突き合わせることで、正常にデータが操作されていることを確認できます。承認外のアクセスが発生した場合は、リアルタイムに検知して発生原因を調査することができます。PISOを導入いただいたお客様の多くはこのような運用方法でセキュリティ強化、監査対応を実現しています。



主な特徴

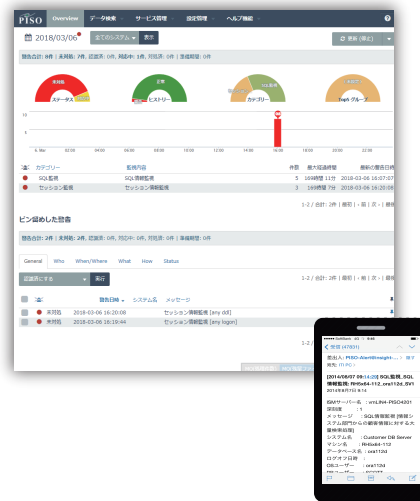
性能への配慮

アプリケーション改修やトランザクション量が増加した場合、DB標準監査機能では、性能への影響を考慮する必要があります。PISOはメモリ参照というロギングテクノロジーを採用しているため、監査ログ取得時のDBサーバーの性能への影響を、最小限に抑えることが可能です。



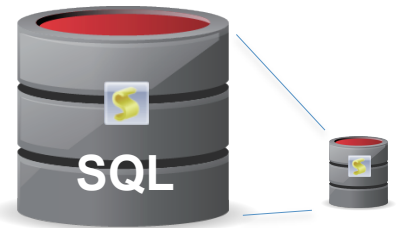
リアルタイム監視

特定端末や特定プログラム以外からのアクセス、大量データの参照・変更などの異常なアクセスパターンを「監視ポリシー」として設定可能です。監視ポリシーで設定されたアクセスが実行された場合、リアルタイムで管理者へ警告が通知し、情報漏洩を未然に防ぐことが可能です。



肥大化する監査ログデータを抑制

蓄積ログ量を抑制するため、圧縮・重複排除機能を実装しています。同じSQL文が二回以上検知された場合、二回目以降のSQL文は蓄積せずに必要最小限の情報のみを記録します。他社製品と比べ蓄積するデータ量が少ないため、最小限のサーバーリソースでの導入、運用が可能です。



システム要件

モニタリングサーバー

Operating System

Red Hat Enterprise Linux
Oracle Linux
Microsoft Windows Server
IBM AIX
Oracle Solaris
Hewlett-Packard HP-UX

Database

Oracle Database
Microsoft SQL Server
Fujitsu Symfaware
FUJITSU Software Enterprise Postgres
EDB Postgres Advanced Server
PowerGres Plus
PostgreSQL
MySQL

マネジメントサーバー (PISO ISM)

Operating System

Red Hat Enterprise Linux
Oracle Linux
Microsoft Windows Server

CPU

Intel Xeon Processor (Total: 4 Cores+)

RAM

4GB +

Disk Space

Software Installation : 10 GB
Stored Log : 22 GB/month/instance

お問い合わせ

株式会社インサイトテクノロジー

🌐 www.insight-tec.com ✉ insight-mktg@insight-tec.co.jp

[東京本社]

📍 150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-19-19 恵比寿ビジネスタワー5F
☎ 03-5475-1450

[西日本支社]

📍 530-0011 大阪府大阪市北区大深町3-1
グランフロント大阪 ナレッジキャピタルタワーC 11F
☎ 06-6359-1450